

# ポスト・チャベスの ラテンアメリカ急進 左派政権

2013年3月5日、ラテンアメリカ急進左派政権の急先鋒であったベネズエラのウーゴ・チャベス大統領が死去した。2012年10月の大統領選挙で4選を決めたものの、新任期に就任することのないままの死去であった。ベネズエラでは大統領選挙が再び行われ、「チャベスなきチャベス派（チャビスタ）政権」が誕生したが、希有なカリスマ性とリーダーシップを備えていたチャベス大統領亡き後、政権の行方は不透明である。

チャベス大統領の死去は、ベネズエラのみならず域内の急進左派政権にも少なからぬ影響を与えたものと思われる。本特集では、ベネズエラに加え、エネルギー支援や米州ボリバル同盟（ALBA）

をはじめ、チャベス大統領が連携を強化してきた域内の3つの急進左派政権（ニカラグア、ボリビア、アルゼンチン）に関する論考を取り上げる。なお、キューバに関しては本特集では取り上げないが、キューバ・ラウル政権はチャベス政権への経済的依存からの脱却の必要性を認識し、数年前から経済改革に少しずつ取り組み始めていた。キューバの経済改革については、「ラウル政権の経済改革」『ラテンアメリカ・レポート』Vol.29 No.1 2012年6月号を参照されたい(<http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Periodicals/Latin/0291.html>)。 (坂口安紀)